

堺市博物館 常設展示

百舌鳥古墳群展示ガイド

The Exhibition Guide of MOZU KOFUN GROUP
in Sakai City Museum



ごあいさつ

百舌鳥・古市古墳群は2019年に世界遺産に登録されました。堺市の百舌鳥古墳群では、世界遺産の構成資産となった21件23基を含め、現存する古墳が44基あります。これらの中心をなす前方後円墳は、5世紀代の日本（倭）における大王や王族などの権力者の墓と考えられ、古代社会を語る魅力あるモニュメントです。

堺市博物館では、実物資料を見ながら、百舌鳥古墳群の魅力を体感していただくことができます。古墳群が世界遺産となった今、堺市民だけでなく、国内外の人びとにひろくその価値を知ってもらうため、日本語および英語の解説冊子を作成しました。

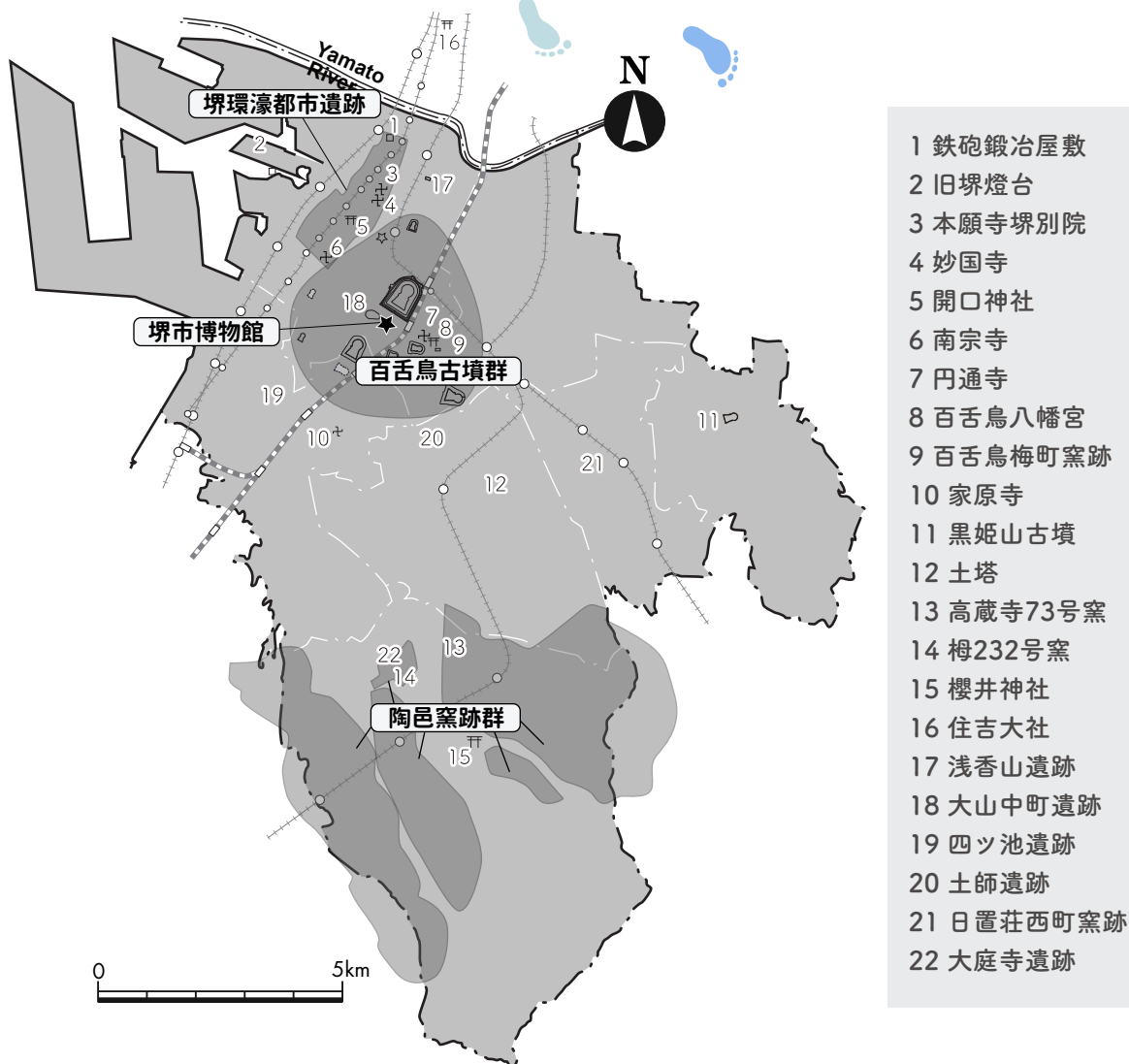
この冊子は、堺市博物館常設展示の古代コーナーで紹介している13基の古墳の解説をまとめたものです。解説執筆および編集は、考古担当の学芸員チームが行いました。

百舌鳥古墳群を学ぶ入門として、この冊子がみなさまの助けとなれば幸いです。

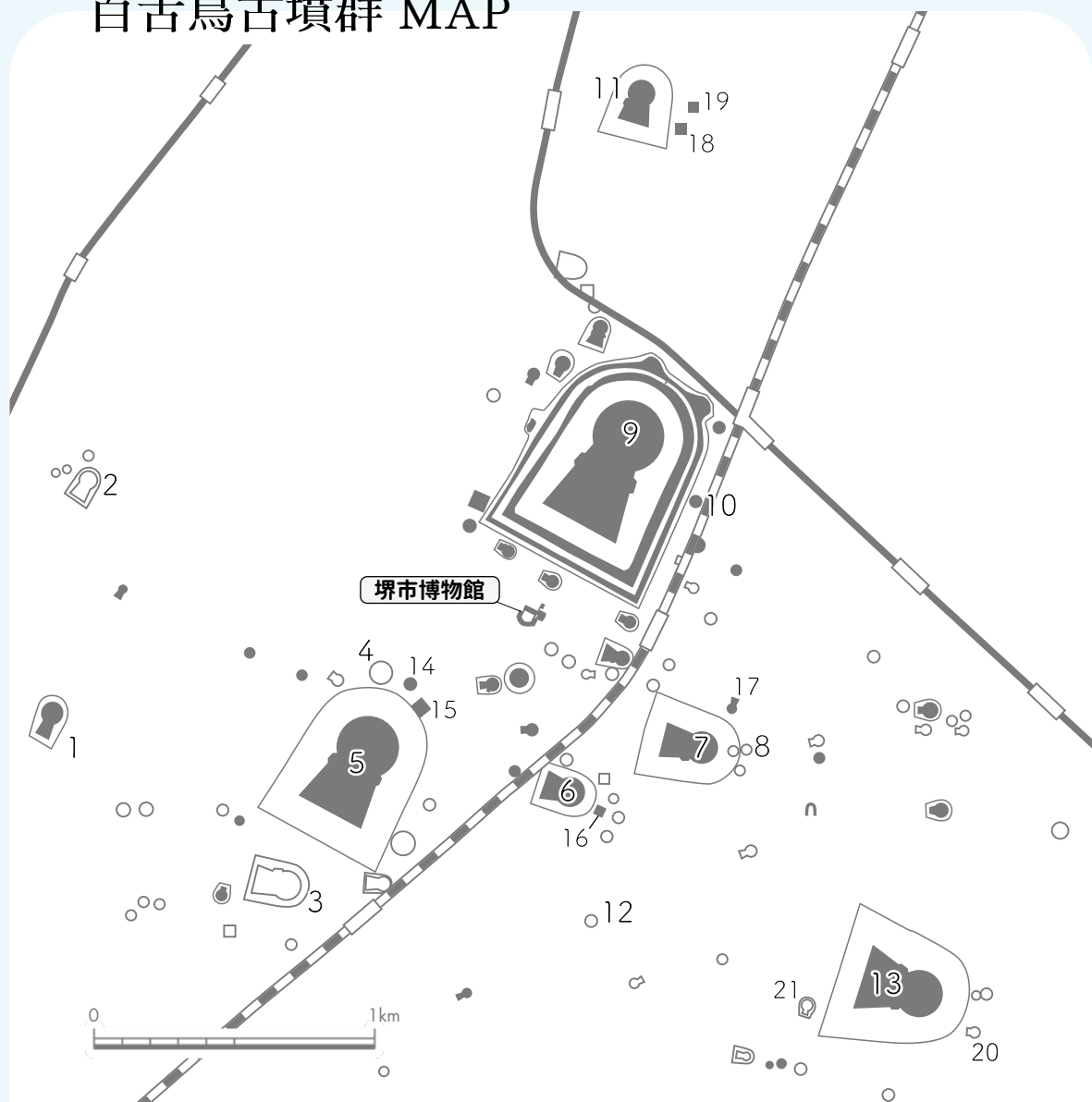
堺市博物館長 須藤 健一



堺市の遺跡 MAP



百舌鳥古墳群 MAP



▼ この冊子で紹介している古墳 ▼

- | | |
|-----------|------------|
| 1 乳岡古墳 | 8 カトンボ古墳 |
| 2 長山古墳 | 9 仁徳天皇陵古墳 |
| 3 大塚山古墳 | 10 塚廻古墳 |
| 4 七観山古墳 | 11 反正天皇陵古墳 |
| 5 履中天皇陵古墳 | 12 赤山古墳 |
| 6 いたすけ古墳 | 13 ニサンザイ古墳 |
| 7 御廟山古墳 | |

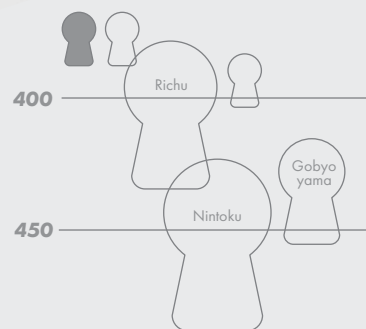
▼ 解説に出てくる古墳 ▼

- | |
|------------|
| 14 七観音古墳 |
| 15 寺山南山古墳 |
| 16 善右エ門山古墳 |
| 17 万代山古墳 |
| 18 鈴山古墳 |
| 19 天王古墳 |
| 20 経塚古墳 |
| 21 こうじ山古墳 |

ちのおか 乳岡古墳

1. Chinooka Kofun

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 155 m
年代 : 4 世紀後半



百舌鳥古墳群で最も古い古墳のひとつです。当時の海岸寄りに築かれ、海や石津川河口からの眺めを意識して造られたと考えられます。現在は、前方部が失われ、後円部は壊されながらも大部分が残っています。

後円部の頂上からは長持形石棺が見つかり、その周囲からは腕輪形石製品が出土しました。石棺は、同じ頃の大型



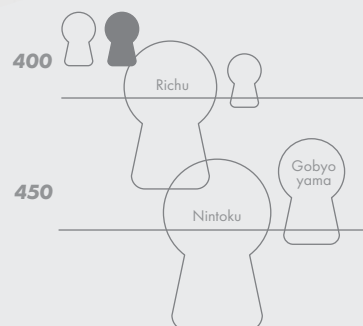
1 乳岡古墳の出土品

古墳で見つかった長持形石棺と比べると、小さめで簡素なものです。乳岡古墳は、これより後に百舌鳥野に築かれる王権中枢の人々の墓とは違い、もともこの地にいた在地首長の墓であった可能性が強いと言われています。

ながやま 長山古墳

2. Nagayama Kofun

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 110 m
年代 : 4世紀後半



乳岡古墳に並ぶ、百舌鳥古墳群における最も古い古墳のひとつです。当時の海岸寄りに築られました。墳丘は完全に削られてしまい、現在その面影はありません。

発掘調査では、墳丘東側の一部を確認しました。そこでは葺石(ふきいし)と、前方後円形の輪郭を示す大きめの葺石(基底石)列の一部が見つかりました。この成果と、江戸時代の絵図や航空写真などを検討した結果、墳丘の長さを復元することができました。周濠のあった場所からは、腕輪形石製品や埴輪などが出土しました。円筒埴輪や朝顔形埴輪のほかに、家形、盾形、靱(ゆき)形、蓋(きぬがさ)形などの埴輪も見つかっています。

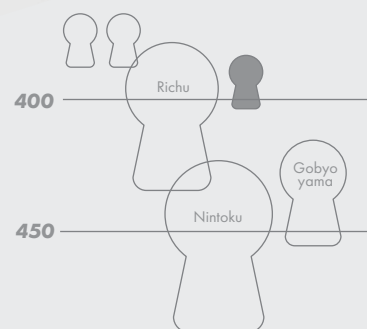


2 長山古墳の出土品

おおつかやま 大塚山古墳

3.Otsukayama Kofun

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 168 m
年代 : 4世紀末



履中天皇陵古墳の南にあった、百舌鳥古墳群で5番目の大きさの古墳でした。戦後、土砂採取や住宅地の開発によって壊され、昭和60年（1985）には完全に消滅してしまいました。

昭和24年（1949）、破壊を受けるさなか、当時大学生であった考古学者・森浩一氏を中心に、有志の学生たちによって緊急発掘調査が行われ、粘土槨*8基と、大量の副葬品が発見されました。粘土槨のうち、人が葬られたのは2基（前方部と後円部に1基ずつ）で、他の6基は副葬品のみを納めたと考えられます。副葬品は、鏡・玉類などのほか、最も多くを占めたのは武器・武具や工具などの鉄製品でした。



3 宅地開発により破壊された大塚山古墳



*粘土槨（ねんどかく） 人を葬った棺（ひつぎ）や副葬品を収めた木箱を、粘土で覆った埋葬（埋納）施設。

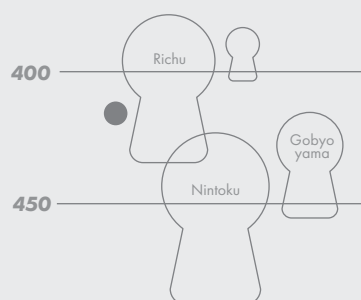


4 大塚山古墳の出土品

しちかんやま 七観山古墳

4. Shichikan'yama Kofun

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 56 m
年代 : 5世紀前半



履中天皇陵古墳のすぐ北にあり、その陪塚*と考えられています。戦後、街の復興に使用するため土砂が採取され、墳丘は完全に失われました。現在は跡地に墳丘をモデルにした展望台が造られています。

墳丘が消滅する以前の調査では、粘土槨3基から、武器・武具を中心とする鉄製品が大量に見つかりました。また国内では最も古い部類の馬具や、金銅製の帯金具など、朝鮮半島との交流の中で手に入れたと考えられるものも見つかりました。これらの出土品は木箱に隙間なく並べられていたようで、人が埋葬されたようすは認められませんでした。



5 七観山古墳跡地に築かれた展望台



6 金銅製帯金具（復元レプリカ）



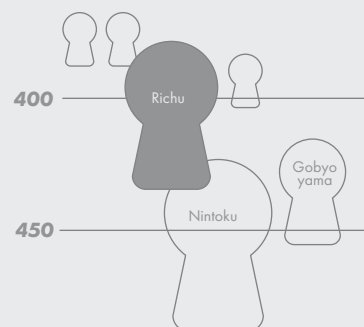
*陪塚（ばいちょう） 大きな古墳の周囲に、付き従うように築かれた小さな古墳。

りちゅうてんのうりょう 履中天皇陵古墳

5. Richu Tenno-ryo Kofun

{ 宮内庁名称 } 履中天皇百舌鳥耳原南陵
{ 別 名 } ミサンザイ古墳、陵山古墳、摺鉢山古墳など

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 365 m
年代 : 5世紀初め



日本国内で3番目の大きさを誇る古墳で、百舌鳥古墳群の3つの天皇陵古墳のうちのひとつです。百舌鳥古墳群では最初に築かれた大王墓と考えられます。埋葬施設や副葬品は確認されていませんが、前方部の頂上に円形の壇が確認でき、そこに埋葬施設があった可能性があります。この壇では、たくさんの白い礫が確認され、蓋(きぬがさ)形、家形、靱(ゆき)形などの埴輪が採集されました。



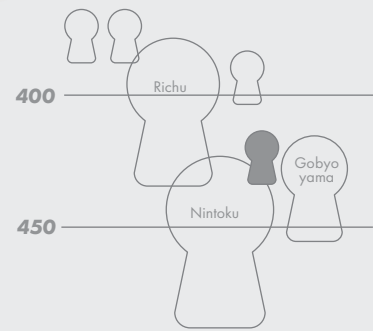
周囲には七観音古墳（円墳）や寺山南山古墳（方墳）があります。ほかにも、七観音山古墳をはじめ消滅した小さな古墳が多く存在したようで、これらは履中天皇陵古墳の陪塚であったと考えられます。

7 百舌鳥古墳群の二大古墳

いたすけ古墳

6. Itasuke Kofun

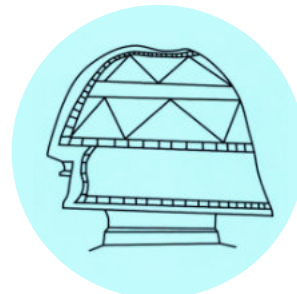
形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 146 m
年代 : 5世紀前半



この古墳は、昭和30年（1955）に住宅開発のために破壊されそうになりました。しかし考古学者を中心とした市民運動によって保存されることになり、翌年には国の史跡に指定されました。この運動は全国各地で起きた遺跡保存運動の先駆けとして、その後の埋蔵文化財保護にも大きな影響を与えました。後円部から出土した衝角付冑形埴輪（しょうかくつきかぶとがたはにわ）は、堺市の文化財保護のシンボルとして、平成13年(2001)に堺市指定有形文化財に指定されました。



8 衝角付冑形埴輪



9 堺市の文化財保護のシンボルマーク



10 いたすけ古墳

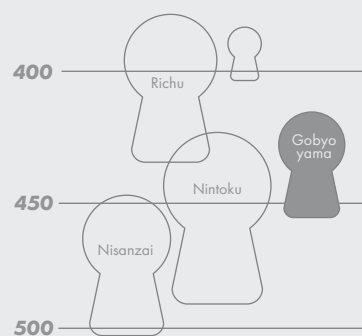
その外側には陪塚と考えられる古墳がいくつかありましたが、現在は善右エ門山古墳（ぜんえもんやまこふん）だけが残っています。

ごびょうやま 御廟山古墳

7. Gobyoyama Kofun

{ 宮内庁名称 } 百舌鳥陵墓参考地*

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 203 m
年代 : 5 世紀前半



百舌鳥古墳群では4番目の大きさの古墳です。履中天皇陵古墳よりも後、仁徳天皇陵古墳より少し早く築かれたことが、出土した埴輪から考えられています。造出し*と前方部の境界で罫(かこい)形埴輪と家形埴輪が見つかり、造出しと後円部の境界では円筒埴輪によく似た土製品が出土しました。造出しにおける儀礼のようすがうかがえる点でも注目される古墳です。

この古墳の周囲には、カトンボ山古墳など、陪塚と考えられる古墳がいくつかあったようですが、現在は万代山(もずやま)古墳を残すのみです。



11 御廟山古墳



* 陵墓参考地(りょうぼさんこうち) 宮内庁によって皇族の墳墓の可能性があるとされるもの。



* 造出し(つくりだし) 前方後円墳の、前方部と後円部の間のくびれ部にみられる方形の張り出し部



かこいがたはにわ いえがたはにわ 囲形埴輪と家形埴輪

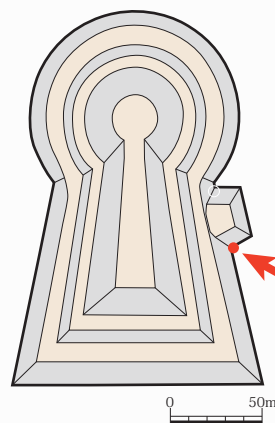
御廟山古墳で見つかった囲形埴輪は、建物を嚴重に囲う塼状の構造を模しており、内側に家形埴輪が収められていたようです。家形埴輪は、切妻屋根に千木(ちぎ)・堅魚木(かつおぎ)を取り付けたつくりで、格式高く表現されています。この形状の屋根は、現在でも神社建築にみることができます。

囲形埴輪は、外側からは中が見えないような構造になっています。まず、出入口は扉がつけられ、カギ状に入り込んだ位置にあり、辺の長いほうからは内部を見ることができません。さらにこの埴輪が見つかったときには、出入口が墳丘側を向いていました。古墳を外側から見る多くの人々は、この囲形埴輪に出入口があることに気づかなかったでしょう。もしかすると、この埴輪のモデルとなった建物でも、出入口は人目につきにくい裏手にあったのかもしれません。



12 囲形埴輪と家形埴輪

ほかの古墳で見つかった、この種の埴輪の中には、建物の中に水を引いている表現をもつものがあり、清浄な水を用いた祭祀の場を再現していると考えられています。御廟山古墳のこれらの埴輪も、外界をさえぎっておこなう、なんらかの祭祀の場を表現していたようです。



13 埴輪の出土位置



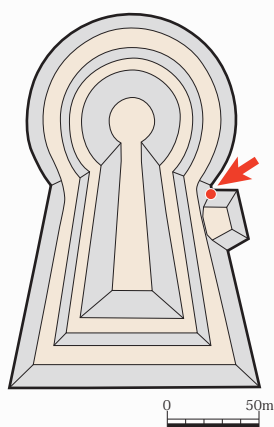
円筒埴輪によく似た土製品

御廟山古墳では、円筒埴輪のような土製品が出土しました。一般的な円筒埴輪とは異なり、上部の径が約18cm、高さ約30cmと小型で、表面は最後にハケ*ではなく、指でなでて仕上げています。また二条の突帯(とったい)も角がなく、形が崩れています。見つかった場所は、冢形・家形埴輪が置かれた場所とは造出しをはさんで反対側の、同じような位置です。葺石の中に埋め込まれ、中に石が入れていました。

いったい何のためにつくられ設置されたのかは、ほかに例が少ないためわかっていません。しかし冢形・家形埴輪とともに、この土製品も造出し周辺での儀礼に使われたと考えられ、注目されています。



*ハケ 埴輪の表面を仕上げるときに用いる木製の工具。



14 円筒埴輪のような土製品の出土場所

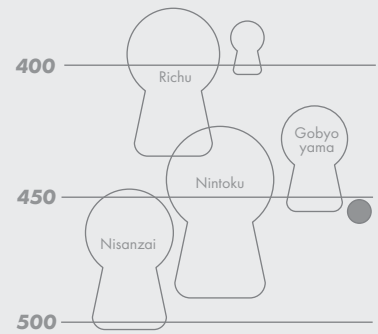


15 円筒埴輪のような土製品と
中に入っていた石

カトンボ山古墳

8. Katombo-yama Kofun

形 : 円墳
墳丘の長さ : 50 m
年代 : 5世紀中頃



御廟山古墳の東側にかつて存在した円墳です。御廟山古墳よりも遅く築かれたものの、その陪塚であったと考えられます。

昭和24年（1949）に土砂採取のため破壊されるさなか、森浩一氏らによる緊急調査が行われ、粘土の床に置かれた木棺が見つかりました。大部分が破壊されていたため、人を葬っていたかどうかは不明です。副葬品として銅鏡や鉄製の武器・工具、滑石製品などが出土しました。とくに滑石製品は量の多さが注目され、子持勾玉4個、勾玉725個、白玉20000個以上の玉類や、刀子形360個、鎌形13個などの工具の模造品が出土しました。



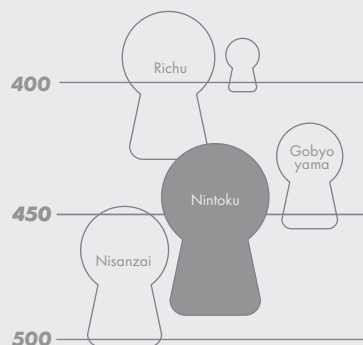
16 カトンボ山古墳の出土品

にんとくてんのうりょう 仁徳天皇陵古墳

9. Nintoku Tenno-ryo Kofun

{ 宮内庁名称 } 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵
{ 別 名 } 大山古墳、大仙古墳、大仙陵古墳など

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 486 m
年代 : 5 世紀中頃



日本で最大の大きさを誇る古墳で、百舌鳥古墳群の3つの天皇陵古墳のうちのひとつです。世界の墳墓の中でも、エジプト・クフ王のピラミッドや、中国・秦の始皇帝陵とともに世界三大墳墓のひとつとされ、その中でも面積は最大になります。



17 仁徳天皇陵古墳



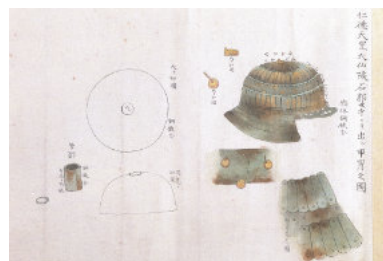
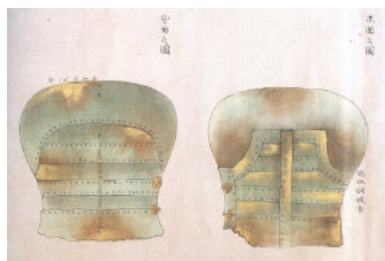
18 明治5年発見の石室・石棺の復元

明治5年（1872）に前方部中段の南斜面で、竪穴式石室が発見され、長持形石棺と甲冑、刀剣、ガラス容器などが納められていました。これらはすぐに元通りに埋め戻されたようで、実物を見ることはできませんが、発見時に作成された詳細な絵図が伝わっています。

一方、江戸時代の記録に「（北側に）石ノ唐櫃アリ」とあることから、後円部にも石棺が存在し、そこに葬られた人物がいたようです。



19 明治5年発見の
金銅製甲冑の復元品



20 発見時に描かれた甲冑の絵図



す え き が め 仁徳天皇陵古墳に置かれた須恵器甕

この須恵器甕は、平成10年（1998）に、仁徳天皇陵古墳の墳丘の東側にある造出しの縁（濠の水面から約2.2mの高さ）に露出していた破片を回収し、復元したものです。ほかにも特徴の違う破片が採集されており、造出しには複数の甕があったことがわかりました。

この甕は、「造出し」の上に据え置かれていたと考えられます。また形の特徴から須恵器の生産が定着してきた5世紀中頃のものであると思われます。

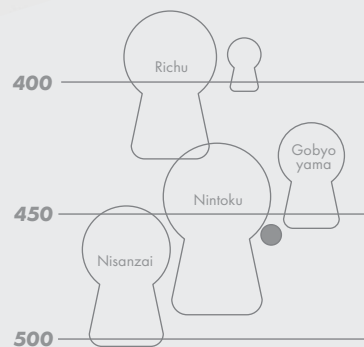


21 見つかった須恵器甕

つかまわり 塚廻古墳

10. Tsukamawari Kofun

形 : 円墳
墳丘の長さ : 35m
年代 : 5世紀中頃



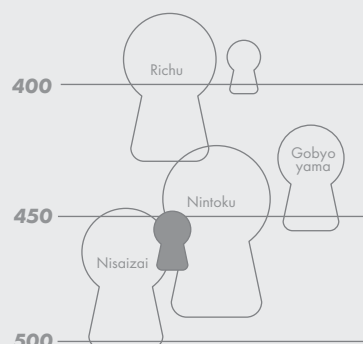
塚廻古墳は、仁徳天皇陵古墳のすぐ東に位置し、陪塚のひとつと考えられています。明治45年（1912）に東京帝国大学の坪井正五郎氏による発掘調査で木棺が発見され、銅鏡2面（変形四獣鏡・変形五獣鏡）や、刀剣、さまざまな玉類（勾玉、管玉、丸玉、小玉、白玉、棗玉）が出土しました。

はんぜいてんのうりょう 反正天皇陵古墳

11. Hanzei Tenno-ryo Kofun

{ 宮内庁名称 } 反正天皇百舌鳥耳原北陵
{ 別 名 } 田出井山古墳

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 148 m
年代 : 5世紀中頃



百舌鳥古墳群の3つの天皇陵古墳のうちのひとつで、古墳群では最も北にある古墳です。墳丘は、仁徳天皇陵古墳よりも前方部が幅広くなり、のちに築かれるニサンザイ古墳と墳丘の形が似ています。現在の周濠は一重ですが、かつては二重にめぐっていました。外側の周濠の跡から、瑪瑙(めのう)製の勾玉や、円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪、人物埴輪が出土しました。



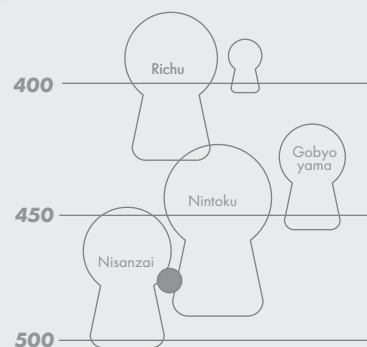
22 瑪瑙製勾玉

東側には鈴山古墳と天王古墳という2つの方墳があり、この古墳の陪塚と考えられます。

あかやま 赤山古墳

12. Akayama Kofun

形 : 円墳
墳丘の長さ : 20m
年代 : 5世紀中頃～後半



赤山古墳は方形の造出しをもつ円墳です。墳丘は早くに削られ、消滅したと考えられていましたが、道路工事の際に再発見されました。

埴輪は当時置かれた状態をよく保って出土し、円筒埴輪4～6本ごとに朝顔形埴輪を挟みながら、隙間なく立て並べられていました。これらの埴輪には動物や記号などが線で描かれたものもあり、ほとんどの模様は墳丘側に向けられていました。造出しでは、輪郭に沿って方形に並べられた円筒埴輪列の内側に馬形埴輪や須恵器甕(かめ)が置かれていました。



23 馬形埴輪



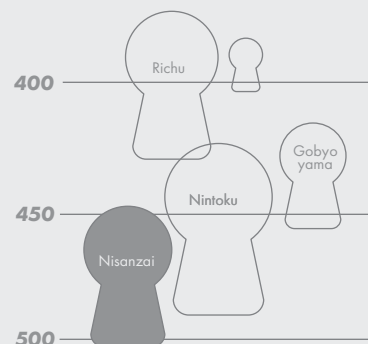
24 円筒埴輪と朝顔形埴輪

ニサンザイ古墳

13. Nisanzai Kofun

{ 宮内庁名称 } 東百舌鳥陵墓参考地

形 : 前方後円墳
墳丘の長さ : 300 m
年代 : 5 世紀後半



25 ニサンザイ古墳

百舌鳥古墳群で最後に築かれた巨大古墳です。百舌鳥古墳群で3番目、国内でも7番目の大きさで、大王(だいおう)、もしくはそれに匹敵する権力者の墓であると考えられます。

注目されるのは、周濠内で見つかった木橋のような構造物の痕跡です。後円部側の中軸線上に、幅約12mで堤と墳丘をつなぐように並んだ柱穴が7列発見されました。古墳で木橋が見つかったのは、初めてのことです。また古墳を飾るものとして、蓋(きぬがさ)*につけた飾りをかたどった木製品が見つかりました。木製品は腐りやすいため出土することは珍しく、この古墳の本来の姿を知ることのできる貴重な資料です。

この古墳の周りには、経塚古墳やこうじ山古墳が陪塚として築かれていましたが、現在は残っていません。



*蓋(きぬがさ) 絹などの織物を張った、柄の長いかさ。貴人に差しかけ、威厳(いげん)を誇るための道具。



26 周濠から見つかった木橋の柱



27 出土した蓋形木製品の一部

百舌鳥古墳群の終焉^{しゅうえん}

百舌鳥古墳群において、巨大古墳の築造は5世紀後半のニサンザイ古墳をもって終了しました。しかし、その後6世紀前半には、この古墳群で最後の前方後円墳となる平井塚古墳と周辺の小古墳が築かれました。さらに大塚山古墳の南方では6世紀末以降に横穴式石室をもつ古墳が数基築かれ、これをもって百舌鳥古墳群における古墳の築造はすべて終了したと考えられます。

百舌鳥古墳群の東端から約4kmの日置荘(ひきしょう)には埴輪を焼いた窯跡群があり、6世紀中頃以降に、多くの大型の円筒埴輪や、黒目を表現した人物埴輪など他にない独特な表現をした形象埴輪を生産していました。しかしこれらの埴輪がどの古墳に置くためにつくられたのかはわかっていません。



28 百舌鳥古墳群の全景（東から）

図版掲載資料 所蔵機関

図版番号	所蔵者
4, 6, 16, 18, 19 20	堺市博物館 個人（堺市博物館寄託）
1, 2, 8, 15, 22, 23, 24, 26, 27 12, 21	堺市文化財課 宮内庁書陵部

*写真掲載にあたっては、宮内庁書陵部、堺市文化財課にご協力いただきました。

◇発行年月

2021年9月

◇編集・発行

堺市博物館

大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内

TEL 072-245-6201 FAX 072-245-6263